



あっ! そうだ

イチゴが4つ!

学校法人札幌ナザレン学園 こひつじ幼稚園(北海道札幌市) [5歳児]

<事前の様子> 幼稚園の花壇のクロッカスが咲き終わる頃、イチゴの白い花が咲く。子どもたちは、ささやかに咲いているその花を見逃さない。憧れていた5歳児年長組に自分たちがなり、登園の途中に親子で摘んで持参したフキ(煮物)、タンポポ(ジャム)、ツクシ(佃煮)で、春の料理を一つひとつ実現しながら、成長の喜びを噛み締めているように見える。(昨年の5歳児が中心になってどのような料理をしてきたのかを、子どもたちはよく知っている。)

	子どもの姿	子=子ども 保=保育者	読み取り
イチゴを分ける 想像	<ul style="list-style-type: none"> ・イチゴの苗の様子を見ては「今年はいくつ咲くかな?」「イチゴはいくつできるだろう?」「黙って食べたらだめだよ」などと言い楽しみにする。 ・毎日、目を皿のようにして見ても、イチゴはやっぱり4粒だった。ガッカリして、イチゴを見つめている。 ・収穫した4粒のイチゴをどうしたらいいか話し合う。 ・今まで同様に、全園児で分けたいという思いがあり、68人でどのように分けたらいいのか真剣な会話が続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 子「4つに切ったらいくつになるの?」 保「16個だよ」 子「まだまだ、だな」 子「10個に切ったらいくつになるの?」 保「40個だよ」 子「まだまだ、だな」 子「15個に切ったらいくつになるの?」 保「60個だよ」 子「お休みがいるから丁度いいかな?」 子「一個のイチゴを15回切ったらどのくらいのおおきな大きさなの?」 保「こ～んなだよ(小さいことを伝える)」 子「…ガッカリ…」 	<ul style="list-style-type: none"> ※イチゴは、子どもにわかりやすく生命のつながりを学ぶことのできる教材だ。今年、昨年度と違ってどうやら4粒しか実っていない。4粒がなくならないように大切に生長を見守ってきた子どもがいる。真剣に保育者に念押しする子がいる。 ※しばらく考え込んでいる子どもたちの姿をワクワクしながら見守る。
ジャム作り	<ul style="list-style-type: none"> ・さっそく、ジャム作りが始まる。焦がさないよう大切に心を込めて作る。イチゴの香りが部屋中に広がる。 ・しっかりと、イチゴの色をしている。 ・かつて自分たちもしたように、小さい子どもたちが味見をしにやってくる。 ・翌日、パンにジャムを付けて、みんなで食べる。特別おいしい味だと思う。 		

考察

昨年の5歳児が何でも分け合って食べてきたことを、この子どもたちが感じていたことがわかった。自分が5歳児年長組になった時、同じようにいろいろな料理を中心になってやっていきたいという思いと同時に、喜びをみんなで分かち合っていこうとする思いも伝承されていた。異年齢児と自然にかかわり合う生活の中で生まれる心は、温かい思いやりの心だ。その心の根っこを育ててこそ、「科学する心」はしっかりと育つと思った。

ポイント

4粒しかないために試すこともできず、「収穫した物」を全園児で分け合う方法を考えるという“集団の育ち”により、子どもたちは想像して話し合っています。イチゴを食べた共通の経験から、「切って分けるのは難しい」「ジャムにするとみんなが少しでも味わえるかもしれない」と想像した内容を共有することができました。目的や課題に向かい、想像や発想を共有して活動を展開する姿から「科学する心」が見えてきます。